

ほっかいどうの社会保障

2011年10月24日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

医療再生！医師労働の改善を！

全道から医師・歯科医師等50名以上でアピール



10月22(土)午後1時30分、札幌大通公園1丁目スタートで「ドクターズ・ランニングin北海道」が開催されました。

北海道保険医会、北海道民医連が賛同団体となってこの日までに全道から50名以上の医師・歯科医師から賛同登録を得、当日も50名以上の医療関係者が(医師・歯科医師23名含)“震災復興”“医療再生”とプリントしたおそろいのTシャツを着て元気に参加しました。

気温18度、曇天スタートから折り返し地点でにわか雨、そしてゴール直前で本降りへと変わる天候でしたが、参加者も、ウォーキングから早歩き、そしてランニングへとピッチをアップして、「雨混じりのいい汗をかきま

(「ドクターズ・ランニングin北海道」より)

した！」と全員笑顔でゴールしました。

11月20日には東京でドクターズ・デモンストレーション(ウォーク)が行われます。

「医師崩壊と医師の労働組合、そして運動」

植山直人氏が講演

前日には、全国医師ユニオン代表の植山直人医師が、「医療崩壊と医師の労働組合、そして運動」と題して講演しました。

今回のドクターズデモンストレーションの意義について触れた後、医療崩壊について、数年前国会でも勉強会などが開かれたが、問題は解決していないのに今は話題にもなっていない。崩壊の要因は低医療費政策とそのため医師数削減政策にあると説明。日本の医師の長時間労働など異常な労働実態にも触れ、24時間の覚醒は酒気帯び運転以上の状態で医療の安全性からも問題があると指摘。医師自らの運動が始まっていることも紹介し、政権前の民主党マニフェストには「医療費をOECD平均に(約4兆円増)、医師数を1.5倍に、勤務医の就労環境の改善」なども盛り込んでいた、民主党も含め議員や国に対して、改善を求める運動を呼びかけました。植山医師もランニングに参加しました。



障害児者の在宅支援求め、1万3千筆の署名を厚労省へ提出

10月16日、「重症心身障がい児者の在宅支援に取り組む会」は、1万3千筆の署名を提出しました。参加した辰巳研一医師(勤医協札幌病院)のレポートの一部を掲載します。



こども診の3人で「重症心身障がい児者の在宅支援に取り組む会」として国会要請に行った。初めて国会に入り、民主党の陳情要請対応の藤谷参議院議員に面会し、要請の趣旨を説明させてもらい、重要な要請で、党としてきちんと対応するとの一応の返事もらった。その後、厚生労働省に移動し、交渉した。当初、政務官クラスがと言う話も、少しあったのだが、出てきたのはとても若い、各部署の係長クラスの事務官6人であった。要請5項目について説明し、回答を受けたが、「それは一応制度がありやっています」「その点は自治体の管轄なのでそちらと交渉して下さい」という感じで、例によってうまくはぐらかされた感否めない。しかし、貴重な1万3千の

署名を提出し終え、一応安堵した。今後も引き続き運動する必要性を感じた。

(「北海道民医連ニュース」より)

10.28 社会保障を学ぶ連続講座(第2弾)に参加しましょう

10月28日(金) 午後6時30分～ 道民医連会館 3階会議室

今回は、社会保障の負担のあり方を中心に学習します。講師は木下・佐橋北星大学准教授の予定です。